

茅川砂防 フィールドミュージアム から版

第3号

発行：平成24年3月
茅川砂防フィールドミュージアム実行委員会
国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所

新潟県中越地震により大規模土砂災害が発生した茅川流域での経験を将来につなぐ活動に関わる情報を発信しています。

茅川砂防フィールドミュージアム

平成23年度の取り組みを報告します。

今年度は取り組み方を検討する実行委員会の下に10月に3つの作業部会（活動検討部会・整備検討部会・地域調整部会）が発足し、砂防フィールドミュージアム作りについて具体的な検討を進めています。

1月には、ガイド経験のある方々からアドバイスをいただく「ガイド意見交換会」が開催されました。
→詳しくは2ページをご覧ください。



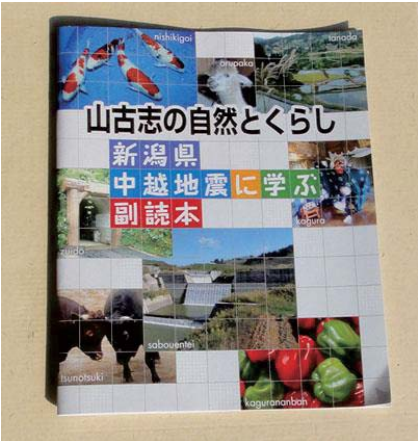
実行委員会開催状況

伝承の助っ人が2種類 登場しました。 →詳しくは3ページをご覧ください・

***その1 砂防副読本
「山古志の自然と暮らし」**

山古志小中学校の子供児童生徒を主な対象に、安全に心豊かに生きることを手助けしようと作成しました。

災害や地域に関心のある住民の皆さま、復興を応援される皆さまなど、どなたにでもご利用いただけます。



***その2 映像「新潟県中越地震
大地と人のドキュメント」**

震災当時の状況を迫力あるCG（コンピュータグラフィック）と関係者の証言で綴る3部作で、茅川砂防フィールドミュージアムで活用します。



CGで再現した地すべりシーンと危惧された土砂ダム決壊シーン（イメージ）



今年度の取り組みから

◆実行委員会

国・県・市・復興関係組織・各作業部会長等が参集し、協力して取り組みを進めるための情報共有や作業部会への助言を行うことなどを目的として1月16日に山古志支所で開かれました。

◆作業部会

今年度第2回となる3つの作業部会が2月14日に山古志支所で開かれ、具体的な活動や整備の実施につなぐための話し合いが行われました。主な内容は次のとおりです。

* 活動検討部会 *

ガイド活動を行う方々に、観光案内と併せて、災害や砂防についての伝承もしていただく事を目的に、砂防フィールドミュージアムのガイド用の手引書をつくることになりました。

ガイドブックは、雪が解けたら早速活用していただけるように、今年度中の完成を予定しています。

今後は映像などを使った講習会や実際の現場へ出での講習会などを行うための検討を進めます。

○ガイド意見交換会

活動検討部会の一環として、ガイドブックを作成するために必要な情報収集を目的に、1月20日に山古志支所で開催され、山古志観光ガイドを始め約20名の皆さんに参加いただきました。

ガイドの現状や課題についての意見交換や地図を使ったガイドポイントのチェックなどをしていただきました。



第2回作業部会開催状況

* 整備検討部会 *

砂防施設を地域振興や防災学習に活用するための整備について検討しています。

山古志平野（東竹沢）については、地域が主体的に活用に取り組む方向で、ニーズや要望をとりまとめています。

* 地域調整部会

活動検討部会と整備検討部会を受けて、調整事項に対応しています。

この「かわら版第3号」で今年度の取り組みについて住民の皆さまにお知らせする事としました。



ガイド経験者による意見交換会のようす

「砂防副読本」のご紹介



防災マップ
づくり

土砂災害の
前ぶれ



山古志小・中学校
での作成会議

(平成22年度)

Q：どんなもの？

A：中越地震後に生まれた子供がもうすぐ3年生になります。ふるさとが遭遇した大災害の経験について子供達が学び、人々の想いととも安全にくらすための知恵を次の世代に伝えつないでいけるように願って、山古志小中学校の先生方にご指導いただきながら作成しました。

なぜ山古志周辺で土砂災害が多発したのか、伝統的なくらしと地すべりがどのようにつながっているか、など、地域をテーマに理科・社会・総合学習などで活用できるように構成しました。

*大人も役立つ防災の基本情報を、イラストや写真を使ってわかりやすく掲載しました。(全34ページ)

Q：どこにあるの？

A：ご希望の方は湯沢砂防事務所までお知らせ下さい。

映像「新潟県中越地震 大地と人のドキュメント」のご紹介

2004年10月23日、午後5時56分。その美しい村を巨大地震が襲った。



一番高いところで
パンとアスファルト
が割れてしまって
(松井幸子さん)



ホースルートを変え
るしかなかったわけ
ですね
本日副所長(当時)



Q：どういう内容？

A：中越地震の記録映像、迫力あるコンピューターグラフィック、関係者の証言などで綴ったドキュメンタリーです。

第1部「山が動いた」(約6分、3D)

・・・夕暮れの東竹沢で何が起きたのか？

第2部「決壊の危機」(約4分、3D)

・・・想定されたおそろしい事態とは？

第3部「時間との闘い」(約12分、2D)

・・・土砂ダム決壊を回避した人々の人間ドラマ

土砂ダム災害は川の上流と下流がつながっていることを感じさせる象徴的な出来事でした。土砂ダム決壊の危機を回避した災害対応の経験は防災や土木の関係者にとって継承すべき貴重なものとなりました。

Q：どこで見られるの？

A：山古志サテライト「茶坊主」や長岡アーカイブセンター「きおくみらい」などに置く予定です。設備があれば第1部・第2部は3D映像で臨場感ある映像をご覧頂けます。

災害復旧が成し遂げられるかどうか、私は今日の姿を想像できなかったですよ。

(長島元村

長)

ガイド経験者の皆さんからのメッセージ

意見交換会に出席いただいたガイドさんからご意見・アドバイスなどをいただきました。

山古志観光ガイドさんから

ガイドとなって2年。案内をするときはいつも被災した事と中山トンネルについてお客様に話します。女性客も結構多くて、目に入る砂防施設について例えば“中に土が入っている“という簡単な説明をするだけでも聞いて納得してもらえます。砂防のガイド資料ができれば役立てようと思います。

(女性)

闘牛場、アルパカ、中山隧道をいつも案内しています。見学の時間が足りずに十分に説明できないのが悩みです。説明する場所に看板があればと思います。

(男性)

行政ガイドの方から

東日本大震災の影響か、一時は行政視察が減っていましたが、8月から急増しました。自治体の議会、町内会、自主防災会、消防団、学校などの視察が多くなっています。

集団移転についての話を聞きたいとか、中山間地型のモデル住宅を見たいという要望が多いです。

砂防施設についての質問を受けることもあります。

地域づくり関係者の方から

ガイドには物語が必要です。隧道を案内するときには横井戸掘りから今につながる伝統的な手掘りの話をします。

人間の物語に限らず、ホテルなど自然の物語もあったら良いと思います。

砂防ボランティアさんから

砂防の経験者として災害復興のあとを案内しながら、地域の皆さんに如何に砂防というものを分かってもらえるかを考えています。子供たちの防災学習に活かしてもらえたらと、昨年度から山古志小中学校の先生方を対象とした砂防見学会を行っています。



山古志小中学校の先生方の見学会
(ガイドは砂防ボランティア)

防災への関心やガイドのニーズが高まっています！

今年度山古志を訪問されたお客様に聞きました。

—なぜ来たの？—

- 山古志の被災場所を見に来ました。
- 地震の爪痕を見て、大切なことを学ぶために。
- 復興の様子を見に来ました。

***** ミニ情報 *****

Q：山古志では1年にどのくらいの訪問者をガイドしているの？

A：250組、対象者約5,800人。

(平成23年集計)

また、ガイドさんたちが案内前の説明に利用する茶坊主の訪問者は、フリーの観光客などを含め、年間で3万人近くにのぼります。

—感想は？—

- テレビ等でこの地域の様子を見聞きしていたが、この地区のすばらしさを直接感じる事ができてとてもよかった。
- 山古志の風景を見て本当に大変だったと思いました。
- 印象に残ったポイントは、木籠の水没住宅でした。
- イベントなどが季節ごとにあればまた来たいと思います！

ガイド関係機関によると、地震や豪雨によって災害が増加している状況から防災への関心が高まり、当地を訪れるお客様は増える傾向にあるとのことです。

◆ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください◆



国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所
〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立23
湯沢砂防事務所 流域対策課 Tel : 025-784-2926
破間川出張所 Tel : 025-792-1105